

## 無償資金協力に係る事後評価票

(注)本案件は外務省評価案件です。

本評価票は外務省のホームページにて公開されている2005年度の無償資金協力におけるプロジェクト・レベル事後評価報告書(平成17年度)に掲載されている個別事後評価です。

担当公館名：在コートジボワール大使館	
国名：ベナン共和国	案件名：小学校建設計画
E／N署名日：1997年6月26日	供与限度額：16. 18億円
先方実施機関：初等・中等教育省	完工日：1999年6月6日
他の関連協力：	
1. 案件の目的	1991年、ベナン政府は教育分野におけるアクションプランにて、2000年までに同国の初等教育就学率を62%から70%まで引き上げるための就学条件改善を計画し、全国の小学校に2,000教室分の校舎を建設することとした。同国的小学校校舎は、地域住民が建設するブロックや日干しレンガの壁にトタン屋根、もしくは木の柱にトタン屋根などの構造のものが多く、就学児童は劣悪な環境で授業を受けていることから、ベナン政府は一定の耐久性を有した構造の校舎建設を急務としていた。しかし、同国の予算ではこれら校舎を建設することが困難なことから、我が国に対して小学校校舎の建設支援を要請してきたものである。
2. 案件の内容	ベナン政府の要請を受け、我が国政府は1997年度から1999年度の3年間にベナン全土にある89校354教室の校舎とそれらに付帯するトイレ、机及び椅子などを整備した。右支援で建設した校舎は、ベナンで一般的に建てられている1校舎(3教室)に加え校長室と備品倉庫を配置し、飲料水の確保が困難な地域の小学校には、校舎の雨水を雨樋にて貯水タンクへ集める設備を設置した。また、本件で建設したトイレは、校舎から30m程離れた場所に設置し、汚物は受水槽に貯めるなどの環境にも十分配慮したものである。就学児童が使う学習机及び椅子は、ベナン業者が一括して製作した木製の2名掛けベンチシートであり、経年変化等で破損した場合でも、現地において容易に修繕できるものである。
3. 案件の妥当性	全般的評価：A 詳細評価：本件は、我が国の援助方針であるミレニアム開発目標(MDGs)達成のための教育支援に該当し、かつ1991年にベナン政府が策定した教育開発政策の中の小学校校舎の建設にも合致するなど、本件プロジェクトの妥当性については問題ない。 本件で建設した小学校校舎は、同国が基本としている教室寸法と同じサイズしながら、校舎の構造を耐久性に配慮したものとなっており、完成後、6年が経過しているが全ての校舎において雨漏りや窓など建付の不具合事例等は見られず、ベナン政府としても校舎の品質レベルに満足している。また、施設の建設コストについて、先方教育省関係者は、教室の質に鑑みて妥当なものと評価している。
4. 施設/機材の適切性・効率性	全体評価：A+ 詳細評価：今回現地調査した6箇所の小学校及び初等・中等教育省の関係者からは、

	本件校舎はベナンの初等教育現場において適切かつ効率のよいものであり十分に使用されている旨説明があった。右校舎は竣工後6年が経過しているが不具合もなく、教室とは別に校長室と備品倉庫も含まれたことから、現場関係者からは従来の校舎では管理できなかった備品を保管するなどの利便性について評価する意見があった。ベナン初等・中等教育省としても今次計画は全体として現地のニーズに合致するものとしている。
5. 効果の発現状況（有効性）	全体評価：A+
	詳細評価：本件プロジェクトは、老朽化した校舎の建て替えによって教育環境を改善し、初等教育の普及及び質の向上を図ることを目標としたが、今回の調査において面談した初等中等教育省、小学校教師及び地域住民からは、当初目標に合致するものであり、また、厳密な今次計画による定量的貢献度の評価は難しいが、就学率につき当初目標の2000年の70%に対し実際には80%を達成し得たことから、今次計画は全体としてベナン側目標の達成に貢献したものと評価されている。 特に教育環境においては、本件で建設した校舎は従来のトタン屋根のものと比較すると屋根の材質も雨などの音を遮断するスレート材を使っており、日中でも室内の温度があまり上昇しないことにより、児童も快適な環境で授業を受けることが可能となった。また、机、黒板及び壁の塗装についても未だ剥がれている箇所等も少なく、大きなメンテナンスを行う必要がないことから小学校としても維持費用の節約につながっている点も高く評価された。
6. インパクト（波及効果）	全体評価：B+
	詳細評価：本件で建設された校舎は、小学校所在地域における中心的な役割をもった建物となっており、村民の識字教育学習や集会場所等としても活用されるなど、地域住民の重要な場所となっている。今回調査した小学校のPTA及び校長等からは、地域住民が初等教育の重要性に鑑み、住民自らが建設した校舎があるが、十分な予算がないことから壁のないトタン屋根だけの校舎しか建設できない等の問題を抱えていたため、日本による校舎建設支援の波及効果は計り知れないものである旨説明があった。
7. 自立発展性・さらなる改善の余地	全体評価：A-
	詳細評価：ボイコン市のセウエオ(SEHOUEO)小学校では、地域住民が夜間でも教室を使うために独自予算で照明設備を設置したが、数ヶ月後に屋根と壁の隙間から泥棒が侵入し同照明が盗まれたため、この事例を防ぐために屋根と壁の隙間をブロックで塞ぐなど、小学校及び地域住民が学校運営に積極的に参画する事例が確認された。 ベナン政府は2000年までに初等就学率を70%とすることを目標としていたが、2005年には94%の就学率を達成した。しかし、ここ数年、人口増加に伴い就学者数が急激に増加したため、各小学校では大幅に定員を超えて、教室不足が問題となっている。このため、ベナン政府としては、我が国が建設した校舎の仕様を参照しつつ、現地の施工業者等とも協議の上、更にコスト削減を行った上で教室数増加につき検討しているところである。
(1) 対応方針	我が国において建設単価の引き下げに向け種々改善努力を行ってきたところである

	が、今後、ベナン側より更なる教室建設につき要請がある場合には、先方の具体的希望を踏まえつつ、質とコストのバランスをとった適切な改善策について具体化を図っていく必要がある。
(2) 対応方針理由	
8. 広 報 効 果 (ビジビリティー)	<p>全体評価：A－</p> <p>詳細評価：本件プロジェクトでは、先方大臣と我が方大使が出席した一連の交換公文署名式や起工式典及び竣工式典等の様子が現地メディアによりベナン国内で報道された。また、建設された各小学校の校舎は地域住民にとって集会などの多目的な催し物等にも使われていることからも、ベナン国民にとって我が国政府が支援した小学校建設は十分に認知されている。</p>
9. 被援助国による評価	<p>(1) 初等中等教育省は、本件プロジェクトを施工した日本業者がベナンの建設業者を監理したことにより、ベナンの建築業界に対して校舎建設の技術移転が行われたことを評価している。また、ベナンの小学校校舎は、国もしくは地域住民等が建設しており、多くの校舎は木の梁にトタン屋根のため、嵐及び白アリなどの影響で破損するなどの事例が多いが、日本が建設した校舎は一定の耐久性を有していることから、ベナンの環境でも長期間の使用に耐えると指摘するとともに、同校舎は保守管理費用が節約できる点についても高く評価していた。</p> <p>(2) ベナンにおける小学校校舎等の維持管理体制は、地域住民等が行うことから、本件で建設された校舎及び備品が従来のものよりも耐久性を有しており、地域住民が負担する経費が軽減されるなどの点について、今回調査した小学校のPTA及び校長からも高い評価を受けた。</p> <p>(3) 現在、ベナンに対する小学校校舎の支援はOPEC、中近東及びアフリカ開発銀行等による有償及び各NGOによる支援による小規模なものしか実施されておらず、2000年以降、世銀からの支援も途絶えており、無償でかつ大規模な支援を実施しているのは日本のみとなっている。こうしたことからもベナン政府は我が国からの支援を重要なものとして考えている。</p>
10. 提言・教訓	<p>今回の事後評価調査において、ベナン側関係者より日本が建設した校舎及びトイレ等については非常に高い評価を受けた。しかしながら、現在、初等教育就学率の向上と人口増加のため急激に児童数が増えたため、全国の小学校において教室不足が引き続き深刻な問題となっている。今回、調査した6校でも2000年当時の児童数と比較すると約倍近くに生徒数が増えており、現在は各学年を2つのグループに分けて授業を行っているが、今後ベナンの人口増加率が2.8%と予測されていることを踏まえると、教室の追加が急務となっている。また、これに見合った教員の雇用等も必要となっている。</p> <p>本件プロジェクトでは校舎、トイレ、貯水タンク及び机などを整備したが、今後、同様なプロジェクトを実施する際には、就学児童の保健面からも安全な水を常時確保することを検討する必要があると考える。これは、小学校施設内に安全に飲料できる給水設備等を建設することにより、児童を感染症などの疾患から防ぐための措置をとるためである。アフリカ諸国的小学校では、小学校敷地内に給水設備がないことから、</p>

	児童は離れた場所の水を飲んでいるが、これらの水は不衛生であり、校舎建設とともに給水施設を整備することは重要と考える。
11. その他	初等中等教育省関係者に対して、我が国が建設した小学校校舎等の建設費用が適切か問うたところ、右校舎建設のコストは一般の校舎よりは割高であるが建物の品質などから納得できるものであり、特にベナン政府としては校舎が長期に亘って使用できるのであれば、コストについては問題と考えていない旨述べた。

無償資金協力におけるプロジェクト・レベル事後評価における調査写真

平成11年度対ベナン「小学校建設計画」 撮影：2005年9月15日&16日



1. kouti-tossouhon 小学校無償で建設した教室

2. kouti-tossouhon 小学校壊れた校舎



3. kouti-tossouhon 小学校政府が建設した校舎

4. Adjarra-Sota 小学校 PTAとの協議

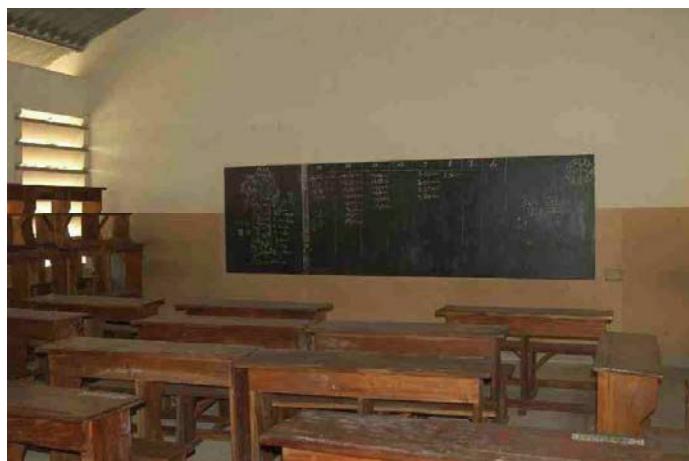


5. Adjarra-Sota 小学校無償で建設した校舎とPTA

6. Adjarra-Sota 小学校無償で建設した校舎と校長

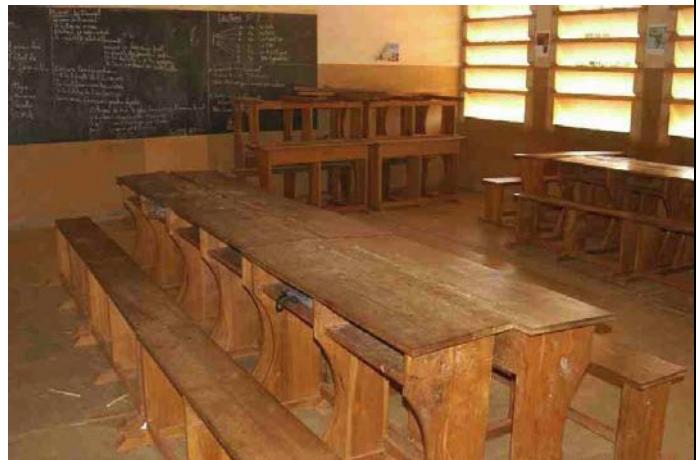
無償資金協力におけるプロジェクト・レベル事後評価における調査写真

平成11年度対ベナン「小学校建設計画」 撮影：2005年9月15日&16日



7. Aholouyeme 小学校無償で建設した校舎教室

8. Aholouyeme 小学校無償で建設したトイレ



9. Dokon 小学校無償で建設した校舎

10. Dokon 小学校無償で建設した校舎内部



11. Sehoueho 小学校既存校舎

12. Sehoueho 小学校既存校舎

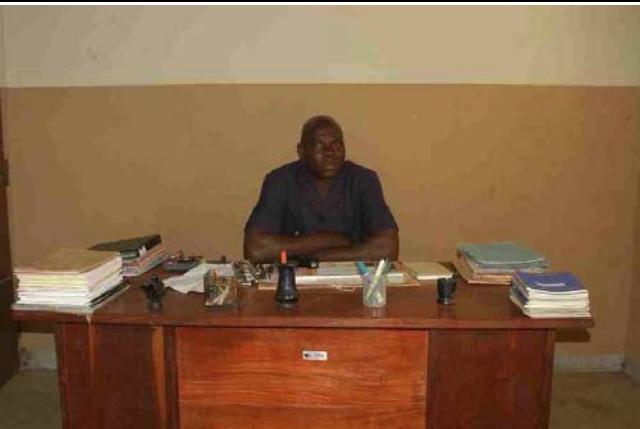
無償資金協力におけるプロジェクト・レベル事後評価における調査写真

平成11年度対ベナン「小学校建設計画」 撮影：2005年9月15日&16日



13. Sehoueho 小学校無償で建設した校舎  
(2校舎を建設)

14. Sehoueho 小学校無償で建設した校舎  
(2校舎を建設)



15. Denou-Lissezin 小学校校長

16. Denou-Lissezin 小学校無償で建設した校舎教室補習授業



17. Denou-Lissezin 小学校無償で建設した校舎教室補習授業

18. Denou-Lissezin 小学校のPTAが建設した校舎 10年程で使用不能となる